

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 寺本 亮洞
〒520-0113 大津市坂本 4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和2(2020)年2月1日土曜日
(毎月1日発行)1部50円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

宗祖の御教え心に、宗内一丸で

1月8日 有縁の人々が延暦寺会館に集う



年賀式は午前11時より延暦寺会館で執り行われ、最初に森川宏映座主猊下を大導師に参列者全員で『般若心経』を誦誦した。

猊下は、冒頭で昨年を振り返られ、天皇皇后両陛下の御即位と新元号公布により新たな御代が始まったことに触れられた。そしてラグビーW杯やノーベル化学賞受賞などの話題が「国民にとって誇らしい

令和となり最初の延暦寺年賀式が1月8日、比叡山延暦寺において催された。宗内諸大徳、政財界、山門出入方などから約350人が参列し、新年の門出を祝った。

明年の宗祖伝教大師一千二百年大遠忌に意欲を示される

出来事があり、国中に笑みがこぼれたことは、真に喜ばしいことでした」と紹介。しかし、その反面で悲しい事件や自然災害が多発したことにも言及され、被害者らにお見舞いの言葉を述べられた。

伝教大師一千二百年大遠忌へ、「宗祖の御教えを心に宗内一丸となって進んでまいりたい」と意欲を示された。

さらに昨年11月24日、ローマ教皇フランシスコ陛下の来日に際し、広島で三年ぶりの再会を果たし、笑顔で交歓されたことを報告。フランシスコ教皇が発した平和メッセージの内容から「神仏から授かった私たちの『いのち』を、人間が作り出した核兵器によって奪うことはあってはならないことです」と共感され、伝教大師の忘己利他の精神にも通じるとの見解を示された。

また、毎年発表される「比叡山から発信する言葉」として、今年も『一々勞不惜(いちいちろうふしやく)』が小堀

今年の言葉は「一々勞不惜」

また、毎年発表される「比叡山から発信する言葉」として、今年も『一々勞不惜(いちいちろうふしやく)』が小堀

光實延暦寺執行より披露された。事態のひとつひとつに労りの心を惜しまず、支援の労を惜しまずに共に力を合わせて過ごしたいとの願いが込められている。

小堀執行は「文字通り、伝教大師様が徹底して自分を忘れ周りの人たちに尽くす『忘己利他』その思いを込めた。一々勞不惜をもってこの一年、専心に勤めて参ることをお約束申し上げたい」と紹介し、その実践を呼びかけた。

極微

先進国、中でも日本は少子高齢化で人口減が目立つが、世界を見ると人口は依然として増加している。アジアを中心に増えている▼推定の世界人口だが、西暦1年は1億人。1000年後に約2億人。1900年には約16億5000万人。2000年には約61億人にまで爆発的に増えた。2011年には70億人を突破したという。さらに2056年には世界人口は100億人に達すると予想されている▼で、心配なのが「果たしてこの人数の人間を地球は養えるのか」ということだ。産業革命以後、医療技術や化学肥料の発明など科学の発展で、増える人口を支えてきた。だが、地球温暖化で環境危機が叫ばれ、異常気象が恒常的になっている現状では、爆発的人口増を支える余力が、地球には残っていないのだろうか。食糧を始め、あらゆる資源の奪い合いが起るかも知れない。人類の未来には厳しい時代が待っている▼太陽の寿命はあと50億年だそう。消滅に向け、1億年に1パーセントずつ明るくなってきており5億年くらいたつと、地球は太陽の熱のために海水が蒸発し、生き物が住めなくなるといわれる。しかも、それまでに至らない遙か以前に、人間は自らの歴史を終わらせるかも知れない。環境の悪化によるのか、核戦争なのか、かわからないが。